

活動助成（2009年度募集）活動実績報告書

団体名	應典院寺町倶楽部
活動テーマ	寺院を拠点にしたグリーフ・コミュニティのネットワーキング



震災から15年、関西地域では、相次ぐ災害や事故等でかけがえのない「いのち」が失われ、遺された人々が供養と追善の思いを寄せ続けています。そして、自然死ではなく突然の別れを迎えた遺族たちは、血縁関係の有無を問わず、「あなたの分まで生きる」「あなたに恥ずかしくない生き方をする」と、各々に誓いを立てています。その一方で、病院から火葬場への「直葬」や手元供養の普及など、伝統的な儀礼が弱体化、衰退化、後退していると言われる時代です。つまり、私たちは伝統的な日本人の死生観と、新しい時代のスピリチュアリティの興隆の狭間を生きています。

そうした中、超高齢化の時代、20年後には年間150万人が亡くなる多死社会が到来します。そこで、今回の助成により、これまでに当会が構築したネットワークを活かし、誰にでも訪れるものであるが内向化しやすい死の問題を知り、考え、そしてわかちあう場を創出することとしました。具体的には、セミナーの企画実施、ワークショップの展開を行いました。また現代美術の作家たちによる作品展や演劇公演により、死生観をあらわし、死と生に向き合う機会を創出しました。

この助成事業の実施により、具体的には次のような成果を得ました。まず、事業の協働や多様な場での意見交換を通じて、多様な世代と属性を横断した実践主体のグリーフコミュニティが創出され、1月に開催した「コモンズフェスタ」においては、大小13の企画群が展開されることとなりました。また、メールマガジン等を通じた情報発信をはじめとして、死と生を扱う多彩な機会への関心と参加を喚起することができ、のべ2,800名弱の来場者に対し、専門家・非専門家のあいだのコミュニケーションの場を提供することができ、自らの「いのち」を見つめる手がかりを提供することができました。